

「令和5年度全国学力・学習状況調査」及び
「令和5年度児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果と分析について

令和5年度 全国学力・学習状況調査

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善・充実等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 対象 小学校6年生、中学校3年生

3 実施日 2023年4月18日(火)

4 調査内容

- 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語(中学校のみ))
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ◆児童生徒に対する調査
 - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
 - ◆学校に対する調査
 - ・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

5 学力調査結果

(1) 教科別平均正答率(全国より上回っているもの、下回っているもの)

【小学校】

		国語	算数
平均 正答率	町田市	65.0	62.0
	全国	67.2	62.5
	東京都	69.0	67.0
割合 ※	町田市	96	99
	東京都	102	107

○国語は、全国より2.2ポイント、東京都より4ポイント下回っている。
○算数は、全国より0.5ポイント、東京都より5ポイント下回っている。

※ 全国を100とした時の割合

経年変化		国語			算数		
		R3	R4	R5	R3	R4	R5
割合 ※	町田市	99	99	96	101	99	99
	東京都	105	105	102	105	106	107

【中学校】

		国語	数学	英語	英語話
平均 正答率	町田市	70.0	52.0	50.0	15.0
	全国	69.8	51.0	45.6	12.4
	東京都	72.0	54.0	52.0	-
割合 ※	町田市	100	101	109	121
	東京都	103	105	114	-

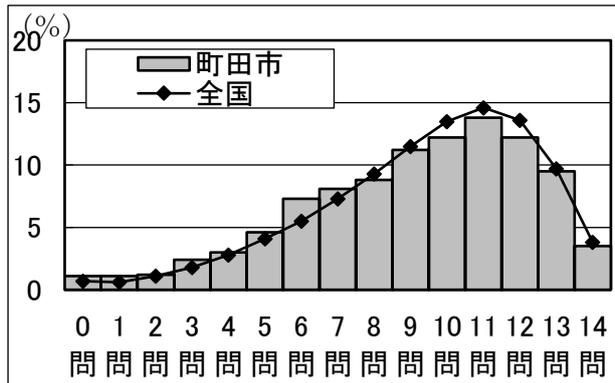
○国語は、全国より0.2ポイント上回っているが、東京都より2ポイント下回っている。
○数学は、全国より1ポイント上回っているが、東京都より3ポイント下回っている。
○英語は、全国より4.4ポイント上回っているが、東京都より2ポイント下回っている。

経年変化		国語			数学		
		R3	R4	R5	R3	R4	R5
割合 ※	町田市	102	100	100	103	101	101
	東京都	104	101	103	105	105	105

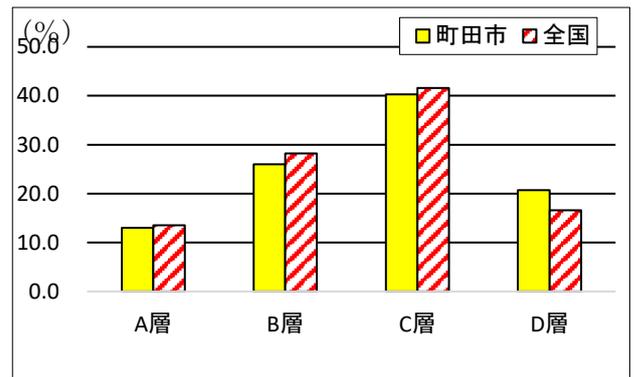
(2) 小学校

①国語

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数, 縦軸：割合)



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの (3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示)

評価の観点・学習指導要領の内容、領域等		問題数	平均正答率 (%)		
			町田市	全国	東京都
		14	65	67.2	69
知識・技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	5	69.9	71.2	73.6
	情報の扱い方に関する事項	2	63.8	63.4	66.5
	我が国の言語文化に関する事項	0			
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	3	65.7	72.6	73.5
	書くこと	1	26.0	26.7	28.9
	読むこと	3	69.9	71.2	73.2

【問題ごとの平均正答率】

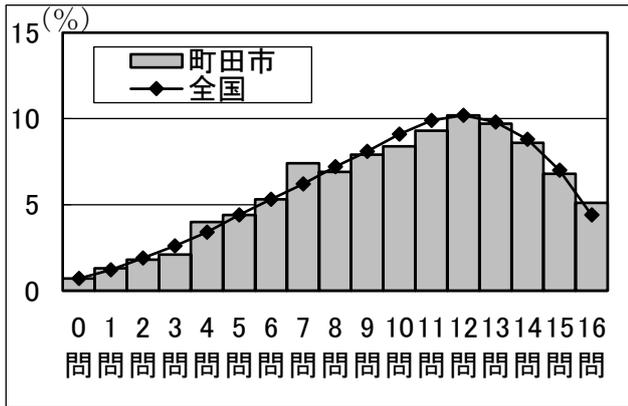
問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1一	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	63.7	64.7	68.2
1二	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	26.0	26.7	28.9
1三 (1) ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	53.6	52.8	56.7
1三 (1) ウ		74.2	72.6	76.2
1三 (2) イ	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	90.0	93.1	93.0
1四	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる	80.8	79.8	82.0
2一	目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる	89.6	90.0	90.9
2二	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	67.6	67.4	72.0
2三	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	63.9	62.0	64.8
2四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	52.6	56.2	56.8
3一 (1)	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる	68.9	73.6	75.4
3一 (2)		69.1	74.0	76.4
3二	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	58.9	70.2	68.6
3三	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	50.5	57.6	60.2

【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

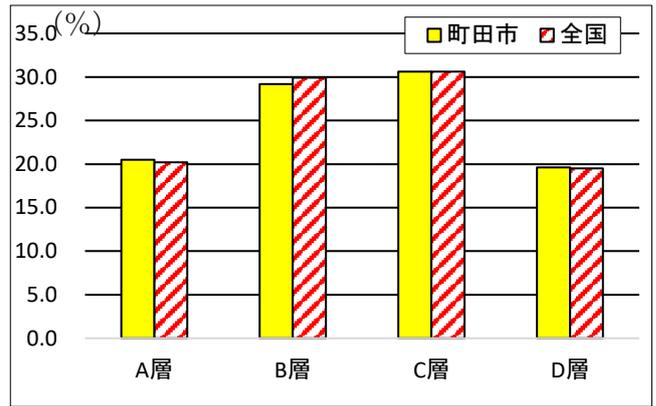
- 四分位の正答数内訳では、D層の割合が全国よりも多い。
 - 観点別の平均正答率では、「話すこと・聞くこと」が**全国より7ポイント程度低い**。
 - 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかみる」の項目や、「情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」の項目は、**全国より2ポイント程度高い**。
 - 「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかみる」、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」、「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる」、「日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる」の項目が、**全国より3～7ポイント低い**。特に、「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」の項目については、**全国より11ポイント程度低い**。
-
- 同じ漢字を繰り返し練習することにとどまらず、学習において感想や振り返りを書く場面や、日常生活においてに日記を書く場面などで漢字を使うことを意識した取組が必要である。
 - 〔知識及び技能〕の「情報の整理」の指導事項との関連を図り、児童が日常生活において考えをまとめる際に、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討するように指導することが大切である。
 - インタビューなどをする際に、どのような目的で聞くのか、自分が聞きたいことは何かなどをよく確かめて聞くことができるようにすることが重要である。相手の話の中に、目的に関わる言葉が出てきたときには、その言葉を取り上げて詳しく聞くなど、分からない点や確かめたい点などを質問するという視点を明確にして指導することが大切である。
 - 話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることが重要である。相手が自分に伝えたいことや、自分が求めている情報などを明確にして聞くことができるように指導することが重要である。
 - 相手と自分との関係を意識しながら、尊敬語や謙譲語などの敬語について理解することが重要である。日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにすることが大切である。

②算数

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	16	62	62.5	67
知識・技能	9	67.4	67.2	71.5
思考・判断・表現	7	56.0	56.5	61.2

【問題ごとの平均正答率】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1 (1)	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる	93.1	93.5	94.3
1 (2)	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる	89.9	88.5	90.9
1 (3)	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	56.1	55.5	61.7
1 (4)	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	79.9	80.8	82.5
2 (1)	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	62.0	59.8	65.0
2 (2)	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	88.5	87.2	89.6
2 (3)	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	26.3	24.9	35.2
2 (4)	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	19.6	20.8	29.5
3 (1)	()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる	67.5	70.3	73.4
3 (2)	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	57.2	56.7	62.4
3 (3)	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	67.7	72.4	75.0
3 (4)	(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考慮することができるかどうかをみる	50.0	47.6	54.2
4 (1)	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる	51.9	46.0	56.2
4 (2)	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる	76.2	75.7	78.6
4 (3)	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	51.6	56.2	56.0
4 (4)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	61.0	64.6	67.2

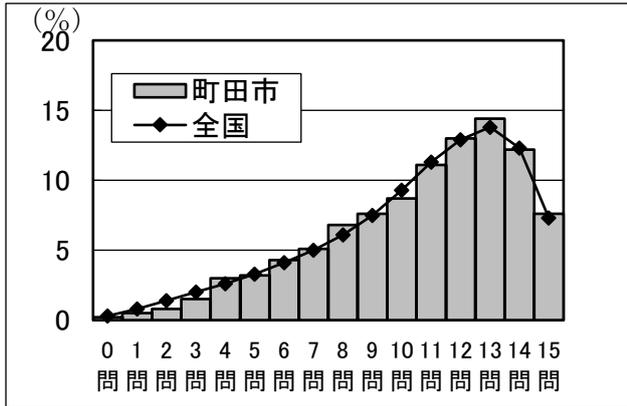
【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

- 四分位の正答数内訳では、全国とほぼ同じ。
 - 観点別の平均正答率では、「知識・技能」はほぼ全国と同じである。一方、「思考・表現・判断」は全国より5ポイント程度低い。
 - 問題別では、「百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる」の項目は、全国より、6ポイント程度高い。
 - 「（ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる」、「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる」、「示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる」、「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる」の項目が、全国より4ポイント程度低い。
-
- 計算の順序についてのきまりや計算に関して成り立つ性質について理解し、計算に習熟したり、計算を工夫したりすることができるようにすることが重要である。
 - 複数のグラフを組み合わせたグラフを読み取る力を身に付けさせるとともに、特徴や傾向を捉えたり、考察したりすることを、グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、他者に分かるように伝えることができるように指導することが大切である。
 - 目的に応じて、観点を決めて分類整理した二次元の表から、導き出した結論の根拠となる数を読み取ることができるようにすることが重要である。

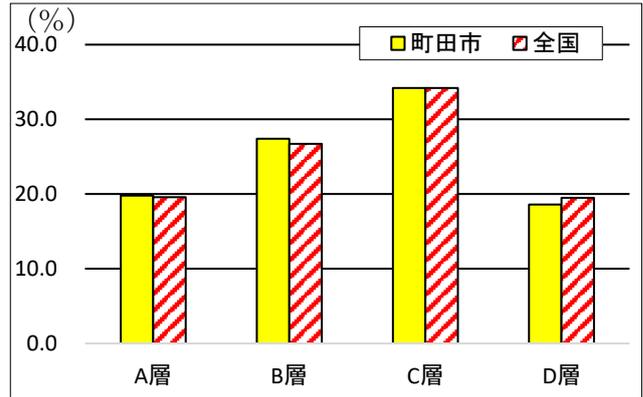
(3) 中学校

①国語

【正答数分布グラフ】(横軸：正答数, 縦軸：割合)



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの (3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示)

評価の観点・学習指導要領の内容、領域等		問題数	平均正答率 (%)		
			町田市	全国	東京都
		15	70	69.8	72
知識・技能	言語の特徴や使い方に関する事項	2	66.1	67.5	69.6
	情報の扱い方に関する事項	2	64.2	63.4	66.2
	我が国の言語文化に関する事項	3	73.3	74.7	73.1
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	3	84.3	82.2	84.4
	書くこと	2	64.9	63.2	66.8
	読むこと	4	65.9	63.7	67.2

【問題ごとの平均正答率】

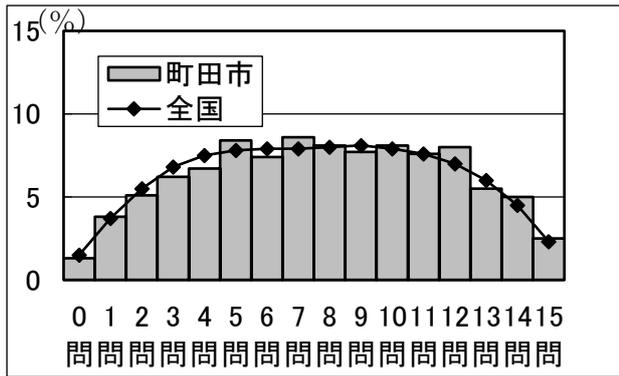
問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1一	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる	90.2	87.5	89.2
1二	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	65.1	65.1	66.0
1三	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる	78.3	76.6	79.2
1四	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	84.3	82.5	84.7
2一	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	92.1	91.1	92.5
2二	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる	64.9	63.0	67.4
2三	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる	75.9	74.2	77.8
2四	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる	69.8	67.5	69.7
3一	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	57.2	54.3	58.8
3二	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	40.2	43.9	46.6
3三	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	63.2	61.8	66.3
3四	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる	72.6	72.1	74.7
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる	76.1	82.5	74.4
4二	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる	74.0	74.1	75.1
4三	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	53.1	50.0	54.1

【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

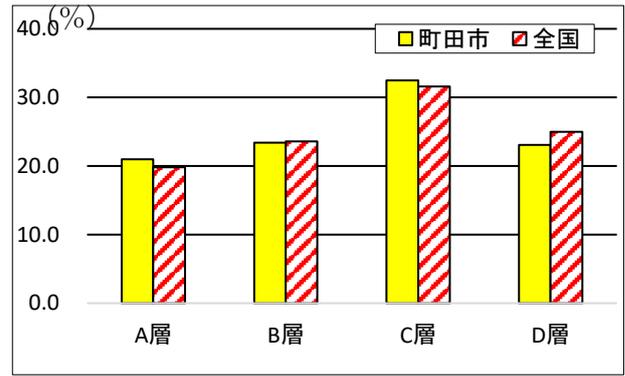
- 四分位の正答数内訳では、A層及びB層の割合が**全国よりも高い**。
 - 観点別の平均正答率では、「知識・技能」の「言語の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」は**全国より1ポイント程度低い**。一方、「思考・表現・判断」は**全国より2ポイント程度高い**。
 - 問題別では、「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」の項目は、**全国より3ポイント程度高い**。
 - 「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる」、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる」の項目が、**全国より4～6ポイント程度低い**。
-
- 漢字の書きについては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得させるとともに、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことができるよう指導することが大切である。なお、一人1台端末等で文字を入力する際にも適切な漢字を選択することができるよう、変換の際に意味を確認したり、必要に応じて辞書を引いたりすることができるように指導することも重要である。
 - 古典の世界に親しむためには、古典の文章を繰り返し音読して、その独特のリズムに生徒自らが気付くことが重要である。その際、小学校での学習を踏まえるとともに、歴史的仮名遣いなど現代の口語とは異なる古文特有のきまりについて、教材に即して指導することが大切である。

②数学

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	15	52	51.0	54
知識・技能	10	56.4	55.7	58.7
思考・判断・表現	5	43.2	41.6	45.8

【問題ごとの平均正答率】

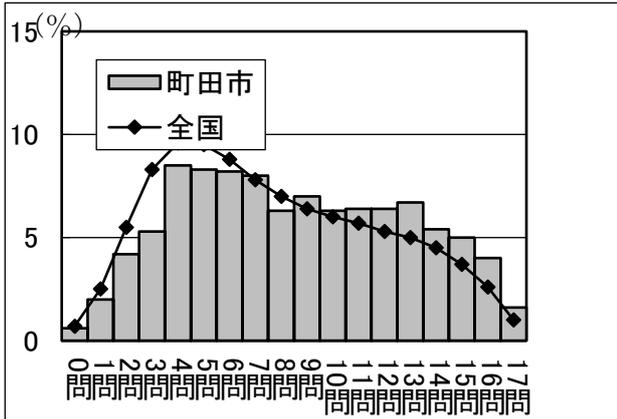
問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	44.8	46.1	46.9
2	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	83.5	80.5	85.3
3	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる	33.9	30.4	37.1
4	反比例の意味を理解しているかどうかをみる	41.2	42.8	44.2
5	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	43.6	46.1	46.5
6	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	88.3	88.9	89.9
6	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	59.0	58.8	63.2
6	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる	40.2	40.9	44.7
7	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる	66.6	65.7	68.2
7	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	35.5	33.6	36.5
8	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる	59.2	57.5	62.3
8	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる	65.1	61.7	65.8
8	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	44.0	42.8	44.9
9	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	37.4	32.1	39.9
9	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる	38.1	37.0	40.5

【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

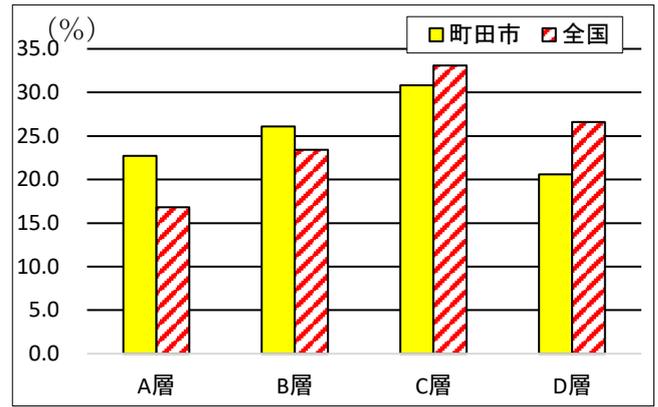
- 四分位の正答数内訳では、A層及びC層の割合が全国よりも高い。
 - 観点別の平均正答率では、すべての観点において、平均正答率が全国よりも高い。
 - 学習指導要領の領域別の平均正答率では、「図形」が全国よりも3ポイント程度高い。
 - 問題別では、「数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる」「空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる」「事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる」は、全国より3ポイント程度高い。特に、「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる」は、全国より5ポイント程度高い。
 - 「累積度数の意味を理解しているかどうかをみる」の項目が、全国より2.5ポイント程度低い。
- データの分布の傾向を捉える活動を通して、累積度数の必要性和意味について理解できるように指導することが大切である。また、不確定な事象についてデータに基づいて判断する活動を通して、目的に応じて累積度数を用いることができるように指導することが大切である。

③英語

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【四分位の正答数内訳】



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	17	50	45.6	52
知識・技能	6	57.0	51.5	57.9
思考・判断・表現	6	43.0	38.8	44.8
聞くこと	5	62.3	58.4	64.7
読むこと	9	57.1	51.2	57.2
書くこと	8	28.0	23.4	29.6

【問題ごとの平均正答率】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1 (1)	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	84.2	79.0	83.1
1 (2)	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	68.7	64.4	70.8
1 (3)	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	53.2	49.8	57.2
2	日常的话题について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	67.9	61.1	70.4
3	日常的话题について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	44.1	41.2	46.7
4	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	55.9	54.8	59.9
5 (1)	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる	58.7	56.0	61.4
5 (2)	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる	70.9	64.5	70.2
6	日常的话题について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	44.6	35.9	44.1
7 (1)	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる	69.8	59.8	65.6
7 (2)	日常的话题について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる	41.2	34.7	40.0

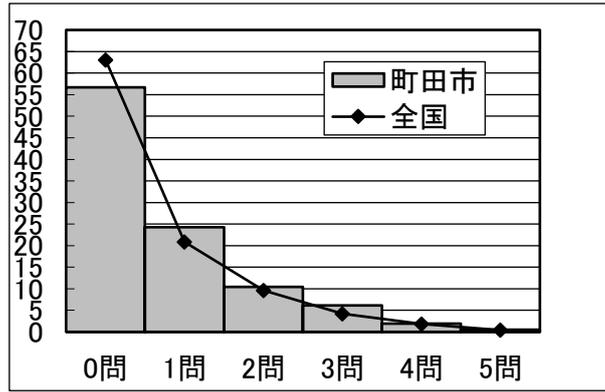
8 (1)	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる	57.7	56.1	62.0
8 (2)	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	21.8	19.5	25.2
9 (1) ①	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる	47.2	40.4	48.5
9 (1) ②	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる	26.9	20.9	27.4
9 (2)	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる	33.5	29.0	36.9
10	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	10.6	7.4	10.1

【分析 (○) と授業改善のポイント (●)】

- 四分位の正答数内訳では、A層及びB層の割合が**全国よりも高い**。
 - 観点別の平均正答率では、すべての観点において、平均正答率が**全国よりも4～5ポイント程度高い**。
 - 学習指導要領の領域別の平均正答率では、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」すべての領域において、**全国よりも4～6ポイント程度高い**。
 - 問題別では、「文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる」が**全国よりも10ポイント程度高く、さらに都平均よりも4ポイント程度高い**。
 - 「社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる」「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる」「『相手の行動を促す』という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる」の項目が、**全国よりも高いが、都より3～4ポイント程度低い**。
- 意見文を読んで、要点を捉えるためには、文章全体を通して読み、複数の情報の中から書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉えることが重要である。指導を行うに当たっては、繰り返し用いられている語句や同じ内容を言い換えている表現、文章中の問いかけなどを手掛かりにして最も大切な語句や文を選んだり、段落内の文章の構成を把握したりすることが大切である。
 - 読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて適切に表現することが重要である。指導に当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動を行うことが大切である。その際、なぜそのように考えたのかという理由を考えさせたり、生徒の発話に対して教師が理由を尋ねたりするといった取組が効果的である。
 - 言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分けるためには、言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手との関係性を意識し、場面や状況に応じた適切な表現を選択することが重要である。指導に当たっては実際のコミュニケーションにおいて複数の表現を取り上げた上で、使用した表現を共有し、分類や比較を通して表現がもつ言語の働きを考えることが大切である。また、理解した言語の働きを別の文脈においても活用できるようにするために、異なる場面や状況を設定して、同じ言語の働きをもつ表現を使い分ける活動を繰り返し行うことが効果的である。

③英語（話すこと調査）

【正答数分布グラフ】（横軸：正答数，縦軸：割合）



【観点別の平均正答率】

※全国より上回っているもの、下回っているもの（3ポイント以上の差があるものは色を濃く表示）

評価の観点	問題数	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
	5	15	12.4	-
話すこと「やり取り」	4	16.6	14.5	-
話すこと「発表」	1	7.3	4.2	-
知識・技能	3	14.9	13.9	-
思考・判断・表現	2	14.5	10.1	-

【問題ごとの平均正答率】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)		
		町田市	全国	東京都
1 (1)	日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	23.1	19.0	-
1 (2)	未来表現 (be going to) を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	10.9	9.4	-
1 (3)	疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	10.7	13.4	-
1 (4)	日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うことができるかどうかをみる	21.8	16.1	-
2	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる	7.3	4.2	-

【分析（○）と授業改善のポイント（●）】

- 観点別の平均正答率では、すべての観点において、平均正答率が**全国よりも2～3ポイント程度高い**。
 - 学習指導要領の領域別の平均正答率では、すべての領域において、**全国よりも1～4ポイント程度高い**。
 - 問題別では、「日付に関する基本的な表現を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる」「未来表現（be going to）を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる」「社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる」が**全国よりも3.1ポイント程度高く**、さらに「日常的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を述べ合うことができるかどうかをみる」では**全国平均よりも5ポイント程度高い**。
 - 「疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身に付けているかどうかをみる」の項目が、**全国より2.7ポイント程度低い**。
- 対話を継続・発展させるためには、相手に聞き返したり確かめたりすることや、相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりすること、相手の答えを受けて、自分のことを伝えることだけでなく、相手の答えや自分のことについて伝えたことに関連する質問を付け加えることが重要である。指導に当たっては、会話の流れに応じて関連する多様な質問を即座にする活動に取り組むことが大切である。また、疑問文を実際のコミュニケーションにおいて正しく活用できるまでには時間を要するため、疑問文を用いて話したり書いたりすることを、3年間を通じて継続的に行うことも大切である。

6 質問紙調査結果

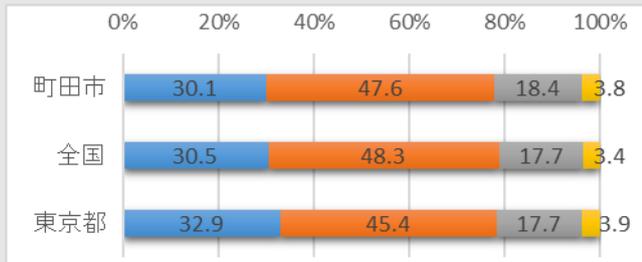
(1) 児童生徒質問紙 【授業をデザインする8つ(2023年度重点の4つ)の取組に関する項目】

見通しをもたせる導入

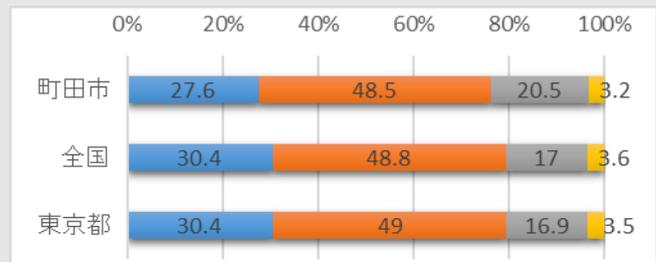
- ① 5年生まで(小学校)に受けた授業(中学校は1、2年生)では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

※左から児童・生徒の回答内容「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の順に並んでいる。

【小学校】



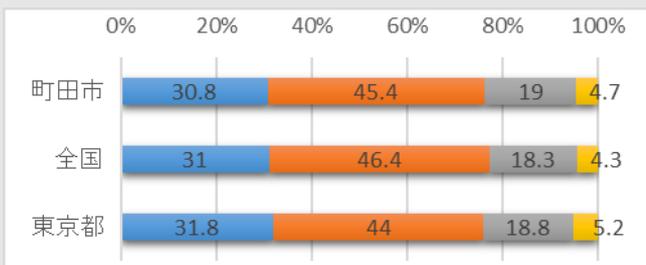
【中学校】



振り返りの設定

- ② 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

【小学校】



【中学校】

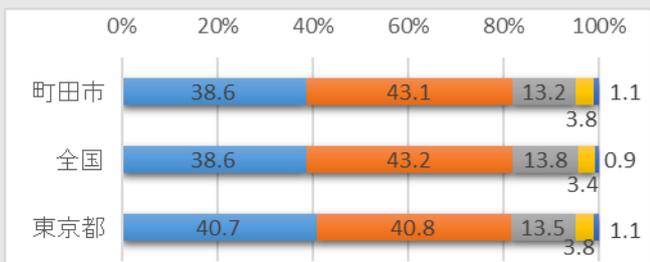


価値ある対話の共有

- ③ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。

※左から児童・生徒の回答内容「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」「学級の友達との間で話し合う活動を行っていない」の順に並んでいる。

【小学校】



【中学校】

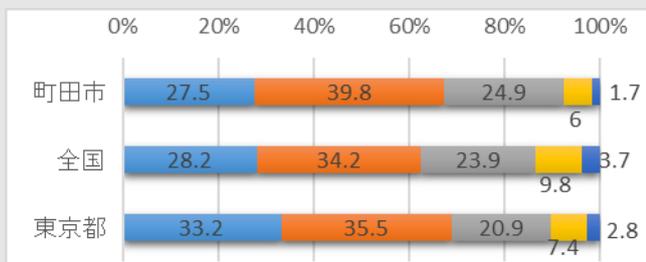


ICTの活用

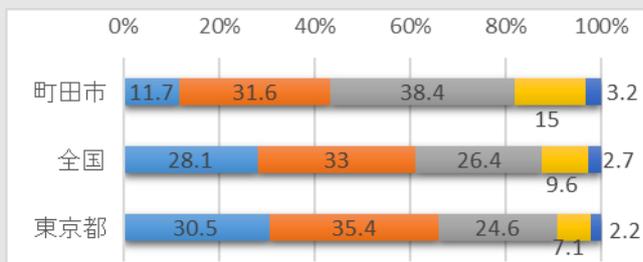
④ 5年生まで（小学校）に受けた授業（中学校は1、2年生）で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

※左から児童・生徒の回答内容「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」「月1回以上」「月1回未満」の順に並んでいる。

【小学校】



【中学校】



【分析（○）と今後について（●）】

- ①の「見通しをもたせる導入」に関する項目は、肯定的回答の割合が、中学校では**全国より3ポイント程度低い**。
- ②の「振り返りの設定」に関する項目は、肯定的回答の割合が、中学校では**全国より3ポイント程度低い**。
- ③の「価値ある対話の共有」に関する項目は、肯定的回答の割合は、全国と同程度である。
- ④の「ICTの活用」に関する項目では、小学校においては全国と比べても使用頻度が多い傾向であるが、中学校においては全国及び東京都と比べて使用頻度が少ない傾向である。
- 主体的・対話的な深い学びを実現していくためには、4つの項目における肯定的回答を高めしていく必要がある。授業をデザインする8つの取組を更に推進していくとともに、中学校におけるICTの効果的な活用を推進し、啓発していく必要がある。

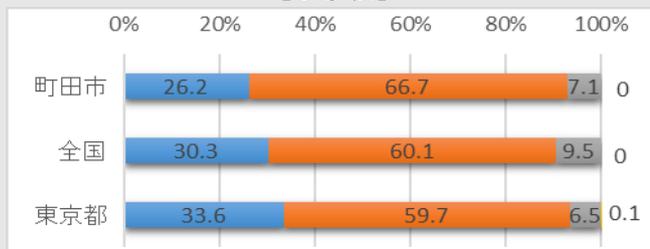
(2) 学校質問紙 【授業をデザインする8つ(2023年度重点の4つ)の取組に関する項目】

見通しをもたせる導入・振り返りの設定

- ① 調査対象学年の児童生徒に対して(以下省略),前年度までに,授業において,児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し,その解決に向けて話し合い,まとめ,表現するなどの学習活動を取り入れましたか。

※左から学校の回答内容「よく行った」「どちらかといえば行った」「あまり行わなかった」「全く行わなかった」の順に並んでいる。

【小学校】

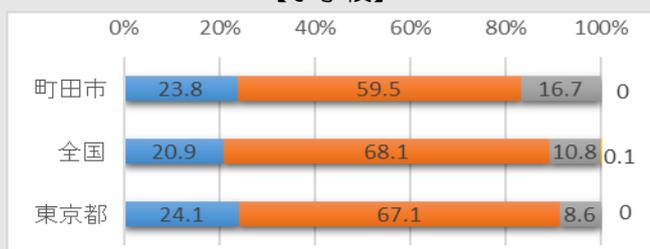


【中学校】

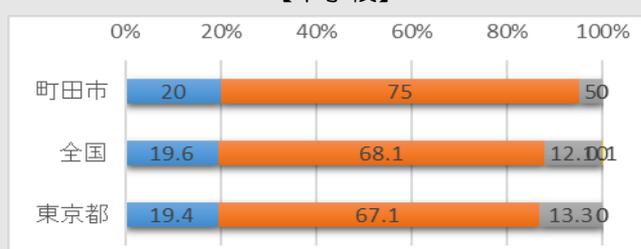


- ② 前年度までに,習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。

【小学校】



【中学校】



価値ある対話の共有

- ③ 前年度までに,児童生徒が,それぞれのよさを生かしながら,他者と情報交換して話し合ったり,異なる視点から考えたり,協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。

【小学校】



【中学校】



ICTの活用

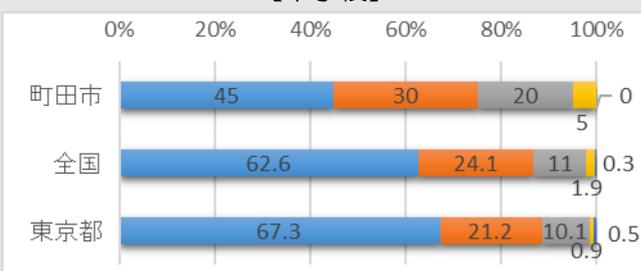
- ④ 前年度までに,一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を,授業でどの程度活用しましたか。

※左から学校の回答内容「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」「月1回以上」「月1回未満」の順に並んでいる。

【小学校】



【中学校】



【分析（○）と今後について（●）】

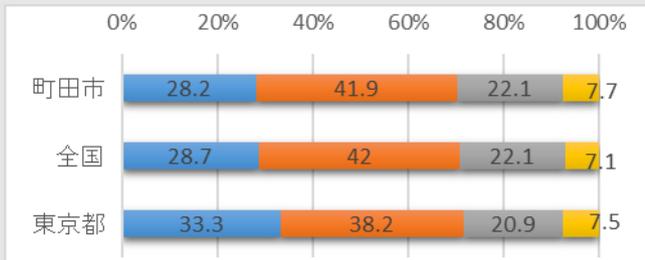
- ①の「児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動」の項目では、肯定的な回答の割合が小・中学校ともに全国と同程度である。
- ②の「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫」の項目では、肯定的な回答の割合が、小学校は**全国より5ポイント程度低い**が、中学校は**全国より7ポイント程度高い**。
- ③の「価値ある対話の共有」に関する項目については、肯定的回答が、小学校は**全国より6ポイント程度低い**。
- ④の「ICTの使用頻度」に関する項目では、使用頻度が多い割合が、小学校は**全国より7ポイント程度高い**が、中学校は**全国より11ポイント程度低い**。
- ②・③の項目は、中学校においては、教師の意識としては、主体的対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行っているという肯定的回答の割合が高い傾向であるが、生徒の回答と比較すると乖離している。今後、教師は生徒相互の対話の中で、思考を深めたり広げたりできるような発問や指導の工夫をし、授業改善に取り組んでいく必要がある。
- ④のICT活用の頻度は小学校においては進んでいるが、中学校では不十分である。今後は、どの教科においても一人1台端末を活用できるよう授業改善の推進を図る必要がある。

7 児童・生徒質問紙調査と教科（平均正答率）クロス集計から相関関係があるという項目で、かつ、町田市として特徴的だった項目

① 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）。

※左から児童・生徒の回答内容「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の順に並んでいる。

【小学校】



【中学校】



② 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

※左から児童・生徒の回答内容「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」「30分以上、1時間より少ない」「30分より少ない」「全くしない」の順に並んでいる。

【小学校】



【中学校】



③ 新聞を読んでいますか。

※左から児童・生徒の回答内容「ほぼ毎日」「週に1～3回程度」「月に1～3回程度」「ほとんど、または、全く読まない」の順に並んでいる。

【小学校】



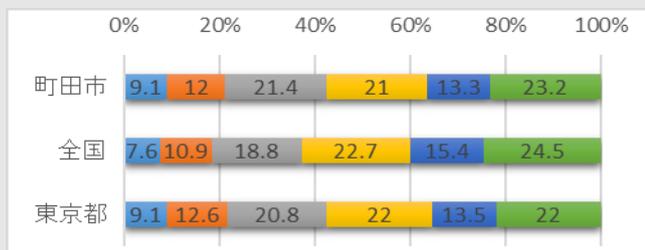
【中学校】



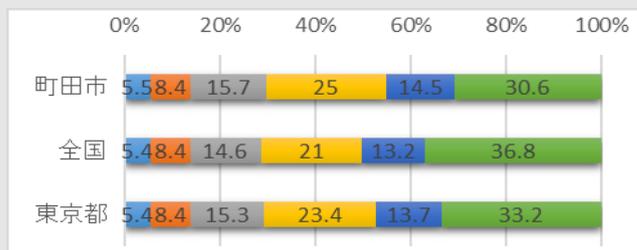
④ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む、教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。

※左から児童・生徒の回答内容「2時間以上」「1時間以上、2時間より少ない」「30分以上、1時間より少ない」「10分以上、30分より少ない」「10分より少ない」の順に並んでいる。

【小学校】



【中学校】



【分析（○）と今後について（●）】

○①の「家で自分で計画を立てて学習しているか」の項目は、肯定的回答が小・中学校ともに、全国と同程度である。

○②の「学校の授業以外での勉強の時間」に関する項目は、1時間以上と回答した割合が、小学校は**全国より3ポイント程度低い**が、中学校は**全国より5ポイント程度高い**。

○③の「新聞を読む頻度」に関する項目は、小・中学校ともに、全国と同程度である。

○④の「読書時間」に関する項目は、1日に30分以上読書をしている割合が、小学校は**全国より5ポイント程度高い**。

●学校以外での学習の時間、機会をつくることができるよう、児童生徒が自身の学習状況を把握し、成果や課題を認識させることが必要である。また、学習の進め方や効果的な学習方法などについても指導し、児童生徒が主体的に自己の学びを進めることができるよう、学校でも指導を行っていく必要がある。

令和5年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都）

1 調査の目的

○児童・生徒の学びに向かう力等に関する意識及び学校の指導方法等を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、各学校の教育指導の充実や組織的な授業改善等に役立てる。

○児童・生徒の学力向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 対象

小学校 第4学年、第5学年及び第6学年の児童

中学校 第1学年、第2学年及び第3学年の生徒

3 実施日 2023年5月15日（月）から2023年6月23日（金）まで

4 調査内容

○児童・生徒調査…児童・生徒の学びに向かう力等に関する意識を調査

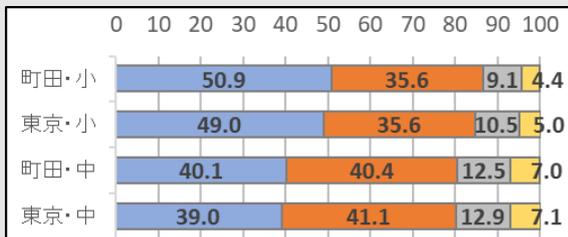
○学校調査…学校の指導方法等を調査

5 結果（特徴的な項目を抜粋）

※左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の順に並んでいる。

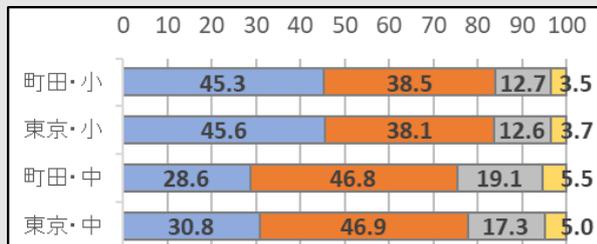
（1）学習の動機

分かることやできることが楽しいから。

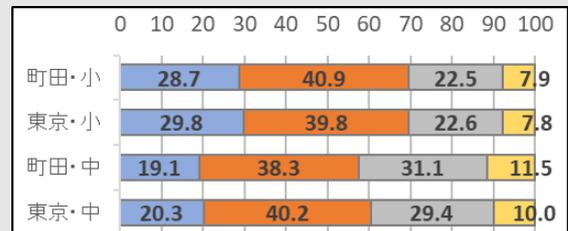


（2）学習の進め方（教科共通） ※小学校又は中学校で東京都の回答割合と差が大きい項目を抜粋

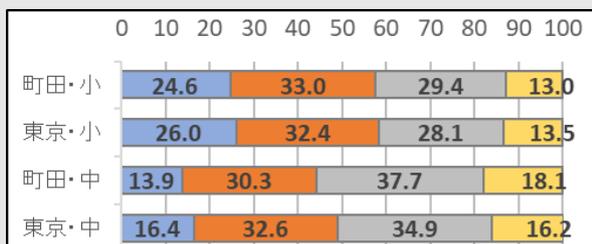
①わからないことがあっても、学習を続けるようにしている。（項目（3））



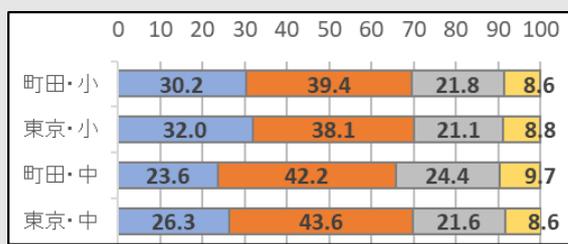
②どうやったらうまくいくか考えてから学習を始めるようにしている。（項目（5））



③自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている。（項目（11））



④他の人と相談して、考えを深められるようにしている。（項目（12））

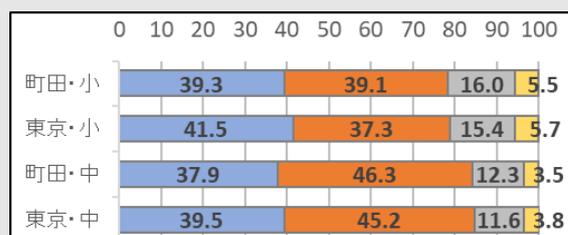
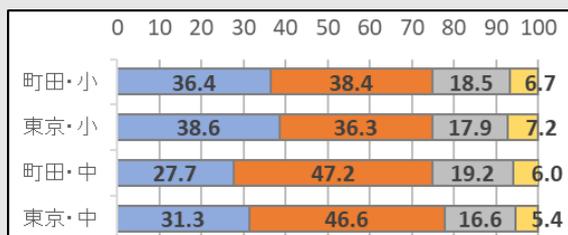


(3) 学習指導の工夫

※小学校又は中学校で東京都の回答割合と差が大きい項目を抜粋

①授業では、自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間がある(項目(3))

②授業では、他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っている。(項目(4))



【分析 (○) と今後について (●)】

○学習動機「分かることやできることが楽しいから」の項目は、肯定的回答が小学校では、東京都より 1.9 ポイント高い。

○学習の進め方①の「わからないことがあっても、学習を続けるようにしている」の項目は、肯定的回答が中学校では、東京都より 2.3 ポイント低い。

○学習の進め方②の「どうやったらうまくいくか考えてから学習を始めるようにしている」の項目は、肯定的回答が中学校では、東京都より 3.1 ポイント低い。

○学習の進め方③の「自分が考えたことを、積極的に他の人や先生に伝えようとしている」の項目は、肯定的回答が小学校では、東京都より 4.8 ポイント低い。

○学習の進め方④の「他の人と相談して、考えを深められるようにしている」の項目は、肯定的回答が中学校では、東京都より 4.1 ポイント低い。

○学習指導の工夫①の「授業では、自分が理解したことや考えたことを他の人や先生に説明する時間がある」の項目は、肯定的回答が中学校では、東京都より 3.0 ポイント低い。

○学習指導の工夫②の「授業では他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っている」の項目は、小中学校ともに肯定的回答は東京都と同程度であった。

●学習動機「分かることやできることが楽しいから」については、肯定的回答が東京都より高い傾向にあり、自律的な学習動機は高い。しかしながら、学習の進め方①②については、肯定的回答が東京都の平均より低い傾向である。

「学習動機」及び「学習の進め方(教科共有)」と「各教科の授業の内容に対する理解の程度」には相関があると東京都教育委員会の分析からも示されているため、「どのように解決していくか」「分からない時にはどうするか」など、今後は学習の進め方の指導に力を入れて進めていく必要がある。

●学習の進め方③④や学習指導の工夫①については、中学校における肯定的回答が東京都より低い傾向にある。学習したことをアウトプットして再構築する機会、表現する機会をこれまで以上に意識的につくる必要がある。

しかしながら、学習指導の工夫②の「授業では他の人と考えを交流しながら課題を解決する活動を行っている」の項目について、中学校の肯定的回答は 84.2 ポイントに対して、学習の進め方④の「他の人と相談して、考えを深められるようにしている」の項目については 65.8 ポイントであったことから、機会をつくるだけでは本当の意味で深い学びにつながることはならないことがわかる。価値ある対話について理解を深めるとともに、その指導方法についても検討する必要がある。

調査結果分析に基づく町田市教育委員会の取組

- (1) 調査結果を踏まえ、学力向上推進委員会にて、小中学校の教科等で授業をデザインする8つ（2023年度重点の4つ）の取組に関する項目を意識した授業実践を行い、公開するとともに、デジタル版実践事例集や、動画を作成して、各学校で授業改善の参考資料として活用するように周知する。
- (2) 町田市スタンダード授業改善シートを活用して、各学校が授業改善推進プラン（中間改善計画）を作成するとともに、組織的な授業改善のPDCAサイクル化を図るよう教務主任会や研究主任会、若手教員育成研修等で周知していく。
- (3) ICTの活用については、教員及び児童生徒を対象に実施した市独自のICT活用状況調査の結果を踏まえ、児童生徒の学びを深めるツールとして、教員が授業の中で積極的にICTを活用できるように、マスターラーニング（スリートスマート作成サイト）の掲載内容及びICT活用研修等の研修内容のより一層の充実を図る。
- (4) 家庭学習の充実に向けて、「Machida Next Education【家庭学習編】」を改訂するとともに、学習習慣の確立や定着、読書活動の推進やICTを活用した家庭学習における学びを推進する。